

町田地区保護司会だより

第89号

発行 町田地区保護司会
会長 熊澤 洋
編集 広報部
TEL 042(707)7159



新築なった町田市役所庁舎



新市庁舎周辺のモニュメントの数々

新設中学校長着任のご挨拶



町田市公立中学校校長会 会長
町田市立小山中学校 校長 大川 武司

本年4月1日付で、町田市の公立中学校としては28年ぶりに（昭和59年4月1日、金井・小山田中学校の開校以来）新しく開校しました町田市立小山中学校の校長として着任しました。

町田地区保護司会の皆様方には、日ごろより町田市公立中学校の教育活動に、ご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。とりわけ、毎年行われる中学校における薬物乱用防止教室の開催、生徒の健全育成のための個別訪問などにおいて、多大なご支援をいただき感謝に堪えません。

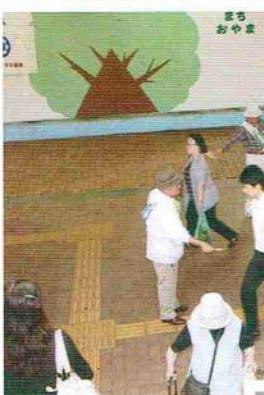
さて、小山中学校は、小山町・小山ヶ丘地区の人口増加に伴い、平成24年度に新設された中学校です。母体校は、忠生中学校・堺中学校・小山田中学校です。昭和22年の6・3制の教育制度が実施されたとき、忠生・堺中学校は誕生しましたが、小山地区には中学校を設立できませんでした。その後堺中学校の分校として、昭和37年3月まで存

続しましたが、それ以降は中学校はありませんでした。したがいまして、50年ぶりの中学校設立は小山地区の地元の皆さんにとって、長年の願いがかなったことになります。

今後は、特殊な立地を有効に活かして作られた施設・素晴らしい校舎のもと、母体校である忠生中学校・堺中学校・小山田中学校の歴史と伝統を大切にしながら、小山中学校の恵まれた教育環境を生かし、小山地区の地元の皆様と保護司の皆様方に応援をいただきながら、新たな歴史と伝統を創ってまいります。どうか皆様には、今後的小山中学校をご覧いただき、温かく、時には厳しく、生徒が健全に育っていくよう、ご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町田市保護司会のますますのご発展と皆様方のご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

第62回 社会を明るくする運動



京王相模原線 多摩境駅



JR横浜線 相原駅前



堺分区



JR横浜線 相原駅前



小山田桜台商店街

忠生分区

小田急線 町田駅前
カリヨン広場にて

町田分区



小田急線 玉川学園前駅前



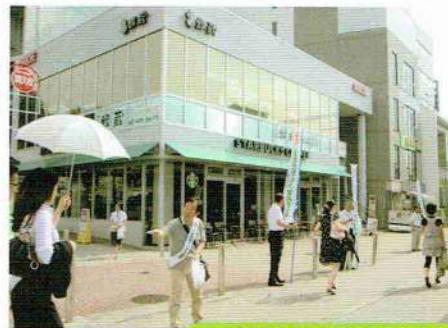
山崎団地商店街



根岸スーパーアメリカイベントコーナーにて



明るくする運動



小田急線 鶴川駅前



石阪町田市長



南分区



東急田園都市線 南町田駅前

小田急線 玉川学園前駅前



JR横浜線 成瀬駅前にて



第62回「社会を明るくする運動」町田大会 記念講演会



社明町田大会 開会挨拶



受付前の行列



会場風景



佐々木講師



花束贈呈



石阪委員長



熊澤副委員長



古田立川支部長



作文朗読 市立忠生中学校 青山裕香さん



大会宣言を読み上げる谷本推進委員

7月30日、町田市民ホールにおいて700人近い参加者を迎えて実施された。

開会のことばは、当地区保護司会会长で社明推進協議委員会副委員長の熊澤洋が行い、続いて推進委員会委員長の石阪町田市長が挨拶をした。田中町田市議会議長、古田東京保護観察所立川支部長から祝辞をいただき、渋谷町田市教育長、加藤町田警察署生活安全課課長代理、三澤南大沢警察署生活安全課課長、武井町田担当主任保護観察官が来賓紹介された。

その後、作文コンクールで東京都保護司会連合会会長賞を受賞した市立忠生中学校の青山裕香さんが受賞作品「支え合い」を朗読。谷本推進委員が大会宣言を読みあげ、第1部式典が終了した。

第2部では市内在住の精神科医で、川崎医療福祉大学特任教授、(有)ぶどうの木取締役などを兼任する佐々木正美氏が「親が大切に伝えるべきこ

と～人を信じること、自分を信じること～」と題した講演を行った。

佐々木講師は、児童の心理や非行からの立ち直りに関する著書を多数出版している。東京大学、ブリティッシュコロンビア大学では精神医学等を学び、帰国後は東京大学精神科などで講師を務め、これまで数々の職場で豊富な経験を積んでこられた。

講演に先立ちレジュメを配っていただいたこともあり、解り易かった。内容も更生保護に携わる者にとって、多くのヒントと知恵を与えられるものであった。

講演終了後、久保委員が佐々木講師に感謝の花束を贈り、閉会のことばを町田BBS会の細野会長が述べた。総合司会は星越町田市公立中学校校長会代表が務めた。（地域活動部 高野 昌憲）

「町田更生保護協力雇用主会」発足

8月6日、サポートセンター会議室にて協力雇用主、保護観察所、ハローワーク、東京都更生保護就労支援事業者機構、当地区保護司会常任理事が参加して「町田更生保護協力雇用主会」の発足会が開催された。協力雇用主会は法務省・厚生労働省の肝入りで立ち上げた、刑務所出所者等の就労支援事業の最大プロジェクトである。就労は刑務所出所者等が社会に帰ってきたとき、立ち直りに向け責任ある社会生活を営むための初めの一歩と



雇用主の方々

考えられる。保護観察所のデータによると未就労者の再犯率は就労者の5倍以上になるそうだ。このことからも保護対象者を就労させることは重要なである。現在当地区保護司会の推薦、保護観察所からの推薦により16法人が登録されている。同会は対象者の就労支援に最も寄与されると思われる。同会の主旨をご理解いただき、参加法人拡張にさらなるご協力をお願いしたい。

(協力雇用主会担当企画調整保護司 鈴木 定彦)



主催側スタッフ

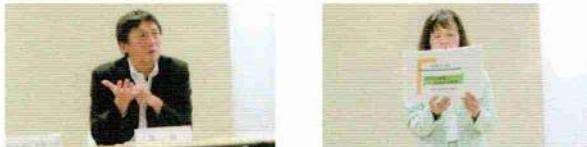
「地域活動推進協議会」報告

10月22日町田市役所において40名参加のもと「学校との連携～地域関係団体の関わりについて～」をテーマに地活推進協議会が開催された。

熊澤会長の挨拶、中村副会長の会の主旨説明に続き、堺中学校の佐藤主幹教諭と忠生中学校の村上主幹教諭による「生活指導の現状と課題について」の報告があり、いじめ問題の早期対応、携帯やネット利用への対策、生徒への共感と家庭との連携、地域社会の支え、自立への取組み等々、事例を交えて伺うことができた。引き続き若林ひまわり相談員から「ひまわり相談の現状」報告があり、その後出席団体の紹介と意見交換がなされた。

最後に、石渡統括保護観察官より、保護司が地域の問題に知恵をだし、各団体との連携をしていくことの必要性について講評をいただいた。

(地域活動部 村上 正博)



発表者:堺中学校 佐藤主幹教諭と忠生中学校 村上主幹教諭

第6ブロック保護司組織運営連絡協議会報告

11月14日羽村市生涯学習センターにおいて第6ブロック保護司組織運営連絡協議会が開催された。今年の3月に出された「保護司制度の基盤整備に関する検討会」の報告書を基にブロックの準備委員会が決めた以下の2つの議題について協議された。

協議事項1 「地域との連携強化」

協議事項2 「更生保護サポートセンターについて」

八王子地区、日野・多摩・稲城地区、西多摩地区、町田地区と、それぞれから意見書に基づいた基調報告があり、その後活発な意見交換がなされた。

町田地区からは会長をはじめとして10名の協議委員が参加し、各地区の貴重な情報を共有することができた。東京保護観察所の久保所長からは「本協議会は50年以上続いている歴史ある会であり、特定のテーマについて協議する意義は非常に大きい」とご講評をいただいた。

(協議会委員 中溝 玉枝)



講評 宮川東保連会長

発表者 平井協議委員
発表者 友井協議委員

■■準定例研修報告■■

8月27日、小田原少年院を視察研修した。沿革は明治36年4月に横浜監獄小田原分監として開設。昭和27年8月より現在に至る。主な教育活動では、全ての処遇の基本は、まず少年の気持ちや考え方をじっくり聞くことから始まり、職業上の資格取得に努め、職業生活に必要な態度、知識、技能を身に付けさせる。土木建築科における特別教育として、小型車両系建設機械操作やガス溶接技能等の指導を行っている。現在17～20歳までの少年が入院しており、親の暴力や虐待を受けている者も多く、保護者のセミナーも実施している。

古い施設であるが建て替えの予定はなく、将来は相模原市の少年院に移転予定である。視察後南足柄市の大雄山最乗寺を参拝し、安全祈願の特別祈祷を受けてきた。
(研修部長 井上 勉)



小田原少年院正門前にて

■■厚木地区保護司会視察・交流会報告■■

11月26日厚木地区更生保護サポートセンターを、会長、副会長、企画調整保護司11名で訪問した。昨年の4月に役員保護司の方々が当地区を視察され、9月に市の中心地にある厚木市総合福祉センター5階に更生保護サポートセンターを開設した。市から無償で借用している一室(約22m²)で、事務、面接、部会(10人程度)等が行われ、会議室や視聴覚室も利用可能である。企画調整保護司は会長、副会長も加わり10名で構成されている。一般市民への知名度は低く利用状況も少ないため、広報活動に工夫しているとのこと。見学後、サポートセンターの運用、活動、利用、及び保護司会活動の様々な問題や対応等について、活発な意見交換ができ、有意義な交流会となった。今後も継続して交流したいとの両会長の意向が述べられ、閉会となった。
(企画調整保護司 近藤 幸)



■■管外一泊研修■■

恒例の管外研修は、11月5～6日28名の参加を得て実施された。今回は施設見学に替え東日本大震災からの復興に頑張っている南相馬市を訪れた。

当日曇り空の下、車中でビデオにて「更生保護」を学びながら紅葉の山々を眺め目的地に向かう。途中山間の水田は見渡す限り雑草で荒れ果て、人の姿はなく閑散としていた。原発避難のためか…

南相馬市では昼食後、原町観光協会の方と、福島テレビのクルーが同乗し、被災地に入った。「沿岸に位置する南相馬市は津波による被害が大きく今も当時の爪痕が残っている」と状況説明。2km先の海から十数メートルの津波とは、想像を絶するものを感じる。さらに今も車や瓦礫が点在し、水田は塩害で雑草も育たない。町並みは倒壊したままの住宅があり、人影もないし水道も使えない状況を目の当たりにして、自然災害と原発事故の恐怖を実感した。

その後、東北最古、一千年以上に及ぶ大悲山石仏や、太さ8mの大杉を見学した。

二日目、白虎隊の学舎、会津藩校「日新館」を見学。少年達は「什の掟」精神を学んで未来に夢をはせていたであろう。次に鶴ヶ城に向かった。2013年大河ドラマ「八重の桜」は戊辰戦争の時、女ながら城に立てこもり戦った新島八重の生涯を描くそうだ。

今回の管外研修、被災地の復興と被災者の復帰を祈りつつ無事終えることができた。

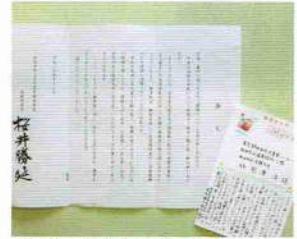
(研修部 吉川 俊雄)



会津藩校「日新館」



原町観光協会の方と福島テレビクルー



参加者の義援金に対する南相馬市長と原町観光協会からのお礼状

法務大臣表彰



忠生分区
小山 典子

この度、東京更生保護事業関係者顕彰式典におきまして法務大臣表彰を授彰致しましたことは大変光栄に存じます。これも偏に皆様のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

顧みますと昭和63年に保護司の拝命を受けて以来、数多くの対象者と向き合ってきましたが、それぞれの人間模様に考えさせられ、教えられ、一緒に悩み共に成長し歩んできたように思います。

「子供が生まれたよ」と言って嬉しそうに抱いてきた人。建築関係に勤めた人と偶然ガソリンスタンドで出会い「これから被災地に家を建てに行くんだ」と誇らしげに胸を張って出かけて行くのを見送った時、がんばって生活している姿に嬉しくなる一方、再犯して何度も少年院や刑務所にお世話になる人もいて保護司の難しさ、大切さを感じます。

今後も更生保護活動に皆様と共にがんばっていく所存でございます。

受
彰
お
め
で
と
り
ま
す

瑞宝双光章



鶴川分区
石川 洋一郎

この度、秋の叙勲の栄に浴しました。これは偏に町田地区保護司会の皆様の温かいご指導、ご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

昭和58年、保護司を拝命し、以来及ばずながら更生保護活動の手助けをして参りました。

この活動を通じてさまざまな人の出会いがあり、大変多くのことを学ぶことができました。心にゆとりがない未経験の当初の面接がなつかしく、あの少年はどうしたろう、あの女性は幸せになっただろうかなど、昨日のことのように思い出します。対象者と真摯に向き合い、よかつたこと、残念であったこと、いろいろな事例を経験させていただきました。その中でカウンセリングの難しさを知り、勉強に通つたこともあります。

これからも皆様と共に保護司活動に精進して参りたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。



町田分区
平本 章一



1990年に保護司の委嘱を受け、22年が過ぎました。40代後半に先輩保護司から説得され深く考えることなく申請書類を提出しました。初回は不受理、交通違反ありとのこと、翌年委嘱を受けました。

躊躇したスタートのお蔭で保護司のあり方に注意を払うようになり、後の処遇活動に反映させることができ、今まで務めることができたと思っております。委嘱を受けた頃は保護司であることを表に出さず、自宅を訪問してきた者が対象者であることを近隣の人に気づかれない配慮をしつつ、隠匿の活動をしておりました。その頃の分区・地区会の活動は情報交換が主でした。その後保護司法が変わり予防活動に力を入れ、分区・地区会活動が活発化し保護司に掛る負荷も大きくなっていました。

個性ある多くの対象者と永年こつこつと付き合ってきたことが評価されたと思っております。また、自社の社員教育の参考にもなっております。

更生保護サポートセンター運営連絡会報告

9月26日、東京保護観察所にて平成24年度新設の12保護司会を加えた都内15地区による「第1回更生保護サポートセンター運営連絡会」が開催され、当地区から友井、藤牧2名が出席した。

東京保護観察所久保所長の挨拶後、小山主任保護観察官の司会で新規設置12の保護司会より順に、準備進捗状況・設置後の運営状況について報告があった。国からの指定前から区側の依頼により更生保護関連事業をスタートさせていた地区もあれば未だ交渉中という所もあり、様々な段階の過程報告であった。私どもの発足時を思い返しながら、共感したり、参考になったりの発表であった。その後自由討議に入ったが、やはり設置の進行が思わしくない地区的質問は切実なものがあり、行政側の協力の取り付けについては、数地区が実経験によるアドバイスを送った。

久保所長のまとめのことばを以て閉会した。

（企画調整保護司 藤牧 素子）

秋の社明運動・分区の活動

相原フェスタに参加し広報活動

10月7日、堺分区では「社明運動」秋の地域活動として、相原中央公園で開催された「相原ふれあいフェスティバル2012」に参加した。

朝方は雨で、天気予報では午前の早くには上がるとのことであったが、雨は長引き参加者の出足は鈍かった。

しばらく資料の配布を見合させていたが止まないので、雨の中準備していたパンフレットその他の配布を開始した。正午近くになって青空が見えた頃、パンフレット600枚は残り僅かとなり、他は配り終えてしまった。途中、熊澤会長も来られ、一同元気付けられる場面もあった。

後日、実行委員会のまとめでは、当日の参加者は約7300人で昨年より大幅な減少であったが、当分区では広報目標を一応達成できたと考えている。

(堺分区 井上 三夫)



町田防犯パレードに参加

9月2日、栄通り商店街が行う「ザ・フェスタ栄通り」に参加した。パレードは定時に開始されたが、スタート直後雷雨のため中止となった。しかし主目的の犯罪予防グッズの配布をメイン会場で実施し、目的を達成することができた。

朝から天候が不順で心配しながら午後1時に11名の分区保護司が集合し、犯罪予防グッズ「社会を明るくする運動」の標語や趣旨の入ったウエットティッシュを600個ほど参加者に配布した。時節柄かウエットティッシュは例年人気があり、短時間で配布が終了してしまい、次回は増量を検討している。

保護司会が予防活動に取り組むようになり十数年が経過したが、保護司会組織の認知度はいまだに低く、パレードの中止は地域社会にPRする機会を逃し残念であった。



(町田分区長 平本 章一)

鶴川地区講演会

11月12日、鶴川市民センター内ホールにおいて230人余の参加者を迎えて、鶴川分区主催による講演会が開催された。

司会は総務部の諸墨賢一。開会の挨拶は中岡秀子分区長が行い、当講演会は記念すべき20回目を迎えたことや、保護司の役割等を説明「社会を明るくする運動」に対する理解を求めた。町田地区保護司会の熊澤会長からは祝辞をいただき、武井和宏東京保護観察所立川支部主任観察官、高橋圭子町田市教育委員会教育委員、町田桐友会小林重一・小川康夫両氏を来賓として紹介した。

講演に先立ち、町田地区保護司会小林文子副会長が講師の新倉孝之氏について「鶴川で生まれ育ち都立高等学校の校長等を歴任され、現在は町田市青少年健全育成鶴川第一地区委員会会長として青少年の健全育成に取り組んでおられる」と紹介した。

その後登壇した講師は「鶴川村から町田市へ」の演題に基づき、昭和30年代から現在に至る町や人の変遷などについて語られた。講師自らが作成された資料を参加者全員に配るよう準備されたので非常に内容がわかり易く聞くことができた。町が変化していく様子は劇的で参加者のほとんどが鶴川地区に移り住んできた人たちであることから、興味深く聴き入っていた。

自分たちが住む町の歴史を知ることは、地域に対する愛情や理解に繋がることになることを改めて思い知らされる内容であった。講演終了後大谷郁子保護司が感謝の花束を贈り、閉会の言葉を鶴川地区町内会自治会連合会高橋倫正会長が述べて盛会のうちに終えた。(鶴川分区 高野 昌憲)



資料を見ながら
聴き入る聴衆

都立町田工業高校にて 「薬物乱用防止教室」を開催

7月18日、小山典子氏（忠生分区長・東京都麻薬中毒相談員）を講師に、全校生徒506名、教職員60名および保護司が参加し、「薬物乱用防止教室」を開催した。

まず、小山講師が薬物に関する問題を出題し、生徒が答えるというクイズ形式で行われた。「ゲーム・携帯電話・煙草・お酒も全て依存症になる。お母さん、お祖母さんの時代には薬物について学校で勉強してこなかった。家庭でもクイズをやって解答を読みながら教えてあげてほしい」と訴えた。

次に高校生による演劇ビデオを観た。そして都立町田総合高校と都立山崎高校の生徒達が企画・制作した薬物乱用防止高校生会議リーフレット『薬物なんていらない！！』を紹介。「乱用防止に取り組んでいる同世代の高校生と共に、身边に潜む薬物乱用の恐ろしさについて認識を高めてほしい。困ったときには迷わず相談して」とメッセージを送った。

最後に、小山講師が実際に担当した乱用者のケースを紹介。乱用者は「疲労感・いらいら・不安感」から逃げるために薬物乱用を繰り返してしまい、また、やめた後もフラッシュバックに悩まされ、家族を道連れに第二第三の苦しみを生んでいる実態の話に、参加者全員が静かに聞き入っていた。

真夏の体育館での一時間半、流れた汗と一緒に彼らの意識が高まったことを期待する。

（忠生分区 高梨 成男）



東京税関青海コンテナ検査センターの視察

10月15日、忠生分区の自主研修として東京税関及び青海コンテナ検査センターを視察した。熊澤会長を始め、町田分区、南分区からもご参加いただき、総勢15名で行った。

青海コンテナ検査センターの視察では、大型X線検査装置及び貨物検査場を見学した。こちらの検査場では、X線装置導入以前は1台のコンテナ検査に約3時間かかっていたが、導入後は約20分で完了できるようになった。また、検査時間が短くなったことで1日の検査実施数が大幅に増えたが、以前と同様に不正薬物等の密輸品は発見・押収出来ており、検査精度にも問題はないそうだ。

次に東京港湾岸合同庁舎へ移動し、東京税関の紹介と講話を受け、庁舎内からの東京港眺望及び情報ひろばの見学を行った。まず、税関の紹介では税関広報ビデオを視聴し、東京税関の管轄・機構、東京税関のあゆみ、税関の使命、社会悪物品の水際取り締まり、密輸及び通関・課税等について学んだ。続いて「不正薬物の密輸入動向について」の講話を受け、国際的な薬物乱用の状況や国内における不正薬物の状況について理解を深めることができた。

私としては、今後職務上不正薬物等の密輸に関連した情報が得られた場合には、税関への情報提供による協力を図りたいと思っている。

（忠生分区 石川 一郎）



堺・忠生分区合同自主研修

9月28日小山市民センターいこいの間において、堺・忠生分区合同自主研修を行った。

講師は東京都麻薬中毒者相談員（非常勤職員）をされている小山典子忠生分区長にお願いした。研修の内容は薬物に関する都道府県・政令指定都市に設置義務がある、精神福祉保健センターの業務内容、特に薬物相談、薬物依存症についてであった。そして入門薬物と言われ、今社会問題となっ

ている脱法ハーブの現状と危険性、問題点などについても事例を挙げてわかり易く説明していただいた。薬物事犯者を対象者として保護観察、環境調整を担当する際には、大いに役立つお話をしていただいた。研修を受けて薬物使用の怖さや依存症の恐ろしさを改めて再認識した。

（堺分区 佐藤 伸一郎）

はじめまして 新任保護司紹介



堺分区
横溝 一枝

9月1日付で保護司を委嘱されました。2日間の新任研修を受け、堺分区の自主研修にも参加させていただき、改めて重く身の引き締まる思いがしました。

保護司の役割、見えない部分での活動、これから実践・経験を経る中で諸先輩からのご指導を賜り任務を果たしていきたいと思います。地域支援に少しでもお役にたてるよう努力しますので、よろしくお願ひいたします。

第31回東京桐友会会員の集いに出席して

9月6日、私学会館「アルカディア市ヶ谷」で開催された《第31回東京桐友会会員の集い》に、熊澤会長と共に出席した。当地区桐友会からは、小林重一さん、萩原康好さん、小川康夫さんの3名が参加された。会場には300人以上の会員が元気に出席され、旧交を温めた。

第1部、開会の挨拶の後、物故者への黙祷で集いが始まった。米寿記念品贈呈34名の中に当地区会員の笠原芳子様が該当されていた。第2部の清興では作曲家で保護司の聖川湧氏のトークや、更生保護応援歌「ひまわりの譜」が歌手の五島つばきさんによって紹介された。その後は松花堂弁当をいただきながら歓談、午後1時に次回を約して散会となった。

(桐友会担当企画調整保護司 鬼頭 加壽代)



お元気にお出席された前列左より
萩原氏、小林氏、小川氏

退任保護司ご挨拶



町田分区
新井 博子

このたび、8月31日をもちまして退任致しました。顧みますとさまざまな壁にぶつかり悩みましたが、常に対象者には優しく人を思いやる心を伝えてきました。

いろいろな事が懐かしくて短く感じています。微力な私でしたが、主任官のご指導と皆様の温かいご支援のお蔭で、大過なくこの日を迎えることが出来ました。深く感謝し、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。会のご発展と皆様方のご活躍をお祈り申し上げます。



編集後記

来年54年ぶりに東京で開催される「スポーツ祭東京2013（東京国体）9/28～10/14」では町田市もサッカー、バレーボール、バドミントン、レクリエーションダンス、軟式野球等の競技の場となる。

地域の自治会やボランティア団体は花づくりや環境整備等の受け入れ準備におおわらわ。私も会場周辺の美化活動に参加し、役員として精一杯取り組んでいる昨今である。

八木隆幸

